

刊夕 日六十月九

常磐毎日新聞

定額 一月五拾圓 三月一拾五圓 半年二拾五圓 一年四拾五圓
 廣告刊費 第一版 每行五圓 第二三版 每行三圓
 電話 發行部 編輯部 印刷部 印刷局
 常磐毎日新聞社 印刷部 印刷局
 常磐毎日新聞社 印刷部 印刷局

桃太郎は何故

桃から生れた

蘆谷重常

【一】

そこで、更にもう少し深くつきこんで考へたいのは、桃を女陰に擬するといふ習俗が、もつと古く起源をもつものではなからうかといふことである。甚た卑陋な話になつて、相濟まぬが、研究の道程で、止むを得ないこと故、御勘辨を願ひたい。類似の形態を假りて女陰を現すことは、今日でも子安貝であるとか、其外いろいろ貝類などを用ふる習慣があるが、大昔は桃を以てあらはしたのではなかつたらうか。柘榴や無花果がしばしば此の目的に使はれてゐることは周知の事實であるが、左様すれば、桃の果も亦、此の目的に使はれたことがないとは斷言出来ない。柘榴が女陰に擬せられるのは、その外形の類似といふことではなくして、その無数の種子を包含することにより、原始母神的信仰の象徴となつたのであり、其の内容に、かなり思索的、觀念的なものがあるが、桃を女陰に擬せらるゝことは、單にその

外形だけで十分であるからより幼稚な、低級な民族文化の産物であると思へる。さうするとこの考へ方はよほど古い時代の發源したものであらう。その痕跡ではないかと思はれるものは「古事記」における、イザナギの命が、黄泉醜女を追ひ拂ふために、桃の果をなげうちたまうたといふ記事である。

○明日の献立
 0000000000
 0000000000

【朝】味噌汁：さとう芋 小皿 やきのり

【晝】焼物：牛べんつけやき 小井 煮豆

【晩】柳川煮(どせう) さしやき 牛蒡 酢味噌

うす打ちこんにやく おろし生姜

桃が邪氣を拂ふといふ信仰は、かなり廣く、古くあるものらしいが、その信仰はどこから来たか。それについて一寸考へて見たいのは、曩に述べた邪視のことである。鬼神の邪視を避けるために、女陰が最も有効であると思はれてゐたことは、前にも述べたが、必ずしも女陰そのものを示さずとも、これに似たるもの似たりと考へられるものを

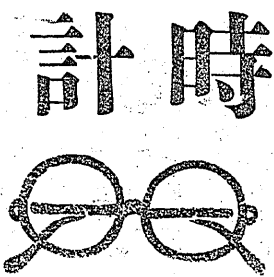
示せば、邪視を避け得られるといふ考へが古くから存在したらしい。なほち子安貝、無花果などの類である(「南方隨筆」による)さうして見ると、イザナギの神が、黄泉醜女八の雷神、及びその部下の千五百の黄泉軍を追ひ拂ふために、桃の果をなげうちたまうたといふ理由は、容易に解釋が出来るのである。もとの果をなげうつた爲に、鬼が撃退せられるといふことは、普通には解釋出来ないことである。それはよほど深い民俗學的根拠が想像されるのであるが、上述の如く考へて来ると、極めて自然に解釋が出来るのである。

記念!!!

開業七週年

正價一割引特賣

五圓以上御買上の方に
 は景品を差上げます



高橋時計店

平町二丁目

・小店員募集委細面談。

九ミリ半
ポニイ
 小型活動寫真機

◇改良された前進號
 撮影機 ¥ 25.00
 映寫機 ¥ 24.00

(カタログ送呈)

平二・電 3

西村屋藥局カメラ部

専門
 産婦人科
 花柳病科
 ◎入院隨意

井坂醫院

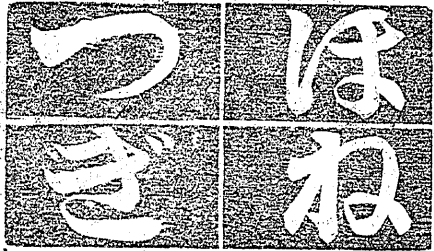
平町田町 電話五五九番

喜多流謠曲と仕舞の
 お稽古をお奨め致します

平町田町六九

喜多流 謠曲 仕舞
 白土會

入會隨時 電話一二七番



大河内接骨院

電五八八

歡交滿日

大野球戰

奉天實業對

日立鑛山軍

期日 九月十八日午後二時

場所 磐城中學球場

後援 福島民報社

磐陽野球審判協會

會員券(内野)五十錢
 左記個所で發賣
 △三丁目玉すし△四丁目マトモ運具店△田町大塚運動具店△大床理髮店△福島民報平支局△南町佐藤自動車工場△榎樋小路魁文堂書店△仲町双葉活版所△紺屋町扇屋酒店

三井タクシー

平二 電六八五番

護れ//大空
 防空//防空

眞の防空は……

優秀なる飛行機の製作にありませう

模型飛行機の製作は……

作りませう模型飛行機を!

國の護りの研究に!

模型飛行機は材料なら何でも揃つて居ります。小学生の手工や研究用として説明書付一組金十錢のセットも出来て居ります。

平驛前 いづみや玩具店

軌道に乗る併合問題

中平窪で部落懇談會

廿五日開催結果を注目する

平窪村大字中平窪部落は来る廿五日午後三時から同部落常勝院で平町の市制施行に依る

土地併合 問題に關し

部落懇談會を開くことになつたが

これは去月廿五日濱三郡町村長大會に臨席した縣の出石總務部長、東郷地方課長を以て平町側主催で開かれた兩町村有志の合併懇談會の席上

併合問題の

好轉を期す

平市制調査部長會

平市制調査部長は明十七日午後一時から役場内に開き別頃の如く来る廿五日平窪村大字中平窪に開かれる大字部落懇談會に關し、これ先立ち種々打合せを行ひ併合問題の好轉を期すことになつた

土木課長

郡下視察

河合縣土木課長並に木村技師は昨十五日江名漁港修築工事起工式に臨席、後

「平窪側としては更に大字八部落に於て夫々懇談會を開く」と協議されたもので

平窪側としては今後更に他の大字も部落毎々懇談會を開催する筈である、尙中平窪部落は従來合併反對論者が相當多いため注目されてゐるが平町側としても市制施行委員が出席する筈

近づく青年

對抗野球

組合其他協議

既報来る二十日磐中、平商平第一の三球場で開催する事になつた平町青年團主催各分團對抗式野球大會のキャプテン會は明十七日午後七時から住吉屋本店に開き組合せ其他に關し種々協議するが同會欠席の場合は棄権と見做し組合せから除外する由

あす奉天軍乗り込む

迫る豪華野球戦

意義深き事變記念日に

日滿親善スポーツ

平町役場並に磐陽野球審判協會後援日滿親善野球戦、奉天實業チーム對日立

十八日に迫りフアンの期待を彌が上にもそつてゐる奉天實業チームは明十七日午前十時十分湯本驛

着列車で來郡、湯本町役場並に三大炭礦野球聯盟後援の對炭礦聯合軍との一戦を同日午後二時半から湯本町管球場で行ひ同夜は湯本町山形屋旅館に一泊の上十八日午前來平

であるが關東の雄日立鐵山軍が強豪奉天の牙城に肉迫する好試合ぶりは断じてフアンの見逃し得ざる一戦であらう(會員券内野五十錢外野廿錢)午後二時兩軍選手入場、午後二時半開會式、主催者側の挨拶、國旗掲揚、會長祝辭、メッセーヂ傳達、審判協會長挨拶、來賓祝辭、兩軍十分宛シートノック、始球式直ちに試合開始

榮ある優勝刀

大友(赤井)君獲得

奉納劍道大會終る

縣社飯野八幡神社の第三回奉納劍道大會は既報の如く昨十五日の大祭當日午前十時から境内で平署の鈴木部長を始め藤井、佐藤、遠藤庄司、草野、大塚、門馬の諸氏審判の下に開催出場劍士百二十餘名に達し頗る盛會を極めたが榮ある優勝刀は赤井の大友能一君が獲得した、戦績左、如し

準決勝

増尾孝介(0)2大友能一(同)4 藁谷泰雄(同)5大友能一(同)2室井誠吾(同)1

忠魂碑の除幕式

磐崎で武道大會も開催

磐崎村では工費八百圓を投じて同村上湯長谷に忠魂碑を建立することになり湯本町馬目石材店で製作中であつたがこの程出来上つたの

で明後十八日午前八時から來賓四百餘名出席の上盛大に除幕式を舉行、尙同日午前九時から小學校に武道大會を開催する

磐中校内体育 磐中

は来る十八日から一ヶ月間に亘り各部の校内體育大會を催す

圖書教育研究 縣圖

圖書教育研究會石城支部は来る二十日午前九時から勿來尋常小學校で研究會を開き實技の練習を行ふ事になつたが會費は二十錢で晴雨にかゝらず實施する由

紫雲英栽培 飯野村

では本十六日午後一時から紫雲英栽培講演會を講師として郡駐在吉成技手を招き開いた

好問養雞講習 好問

農會では本十六日午前九時から小學校で養雞講習會を講師として縣飼鶏場長田中技師を招き開いた

第二校同窓會 平第

二校の同窓會は来る二十三

櫻丘會員二告グ

- 一、櫻丘會員視察旅行
- 二、参加者 櫻丘會員、町立時代ノ卒業生又其近親タル女子
- 三、旅行地 土浦、潮來、鹿島、香取、成田、上野(解散)
- 四、費用 八圓(當日持參、土浦迄ノ切符購入者ハ其ノ金額ヲ差引ク)
- 五、日時 十月二日午前七時三十分平窪發、潮來着泊、十月三日潮來發、上野着(午後三時ノ豫定)解散自由行動
- 六、申込期間 九月二十三日マデ、母校音波へ、参加者ハ十月二日午前七時マデ平窪集合、平窪以外ノ者ハ同列車ニ乗車ノコト

江尻博士開院

山内醫院田町跡に皮膚科、泌尿器科、性病科専門の江尻醫院は今十六日から平町田町元山内醫院跡に開業、一般來往診の需めに應ずる事になつたが院長醫學博士江尻伊三郎氏は本郡草野村北神の出身で醫中を卒業水高を経て千葉醫大に進み同校卒業後同大の泌尿器、皮膚科、性病科の教室に入り佐藤邦雄博士指導の下に研究を積み今春の教授會で豫て提出中の論文が通過永年の功が酬えられた努力の人だけに各方面から矚目されてゐる

戦慄の超スリル!

魔術的深田の全貌

金券抜取り犯人の 公判開廷愈々迫る

社會の耳目を聳動せしめた例の植田警務署の五千圓金券抜取り犯人埼玉縣秩父郡秩父町大字大宮二八二生れれ當時同縣浦和町字綱ヶ窪一三六九東京警務局庶務課課長深田光太郎(三〇)に係る窃盜公印及公文書偽造行使事件は過般來平支部で開口豫審判事係り村田書記立會の下に取調べ中であつたが今十五日愈々終結有罪と決定公判に廻されたが、かくて捜査日數約一ヶ月を要して一時は迷宮事件と迄取沙汰されたる事件も此處に其全貌を公開されるに至つた、事件は去る八年二月十三日東京警務局庶務課を命ぜら勤務中病妻の醫療費と子女の學費に追はれ本勵業銀行浦和支店其他から約三千圓の借金をする等極度の生活難に陥つた所から同局内の事情に精通してゐるのを奇貨とし各地方警務署長宛發行する金券を窃取し金員を得んと企て待機中去年六月九日植田警務署長宛に四千九百二十圓の金券を發送する事を見逃されこれを抜き自宅に持歸り豫て東京市下谷區西黒門町二二印刷業堀肇方で偽造した「植田警務

低當物を種に 前町議詐欺?

關係者の疑惑深まる

本町白銀町前町議松井清一(五七)は父兼次が生存中自己所有の赤井村字窪田地内の宅地並に家屋を抵當にして同町大町小野テイから三百圓を借用したがその後小野が宅地八十坪を假登記したのみを奇貨として父の代理行為の如く装ひ赤井驛前馬車業磯上彌之松に百二十圓で賣却の契約を結び手金五十圓を受取つたが之を知つた關係者が立派な詐欺行為になると騒ぎ立てゐる。

魚行商人の 丁半賭博

昨夜内郷で手入

昨十五日夜一時半頃内郷村大字高坂魚行商齋谷彌之

明日のラジオ
十七日

今晚は西の風晴
明日北西の風晴
曇り

今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間
- ラヂオソアラエテイ「滿洲華變の思出」徳江美意子他
- 後六、三〇 生活改善講座
- 東北振興と生活様式の改善 宴會及び集會」木村匡
- 後七、三〇 講演「情報委
- み一網打盡逮捕した
- コソ泥逮捕 湯本町

断髮の美女が 情夫と逃避行

平附近のカフェーに潜伏か

郡山市藏場町一二料理店富永學方北海道生れ秋本ミヨ(二七)は去る八月十一日午後三時頃情夫の元同家料理人田村郡大越村大字大越生れ白石勉(二七)と共に上逃走捜査中の處平方面に潜伏の形跡あるため本十六日平署へ捜査方學から願ひ出た、尙同女は去る六月中迄同市内で酌婦稼業をしてゐたもので料理店或はカフェー方面に働いてゐる模様で断髮の美女である。

拾兒?女の迷ひ兒

親切な夫婦が一時保護

昨十四日去後四時頃平町長橋町地内にメリンスの着物に麥朝の五ツ位の女兒の迷ひ兒あるを通行中の内郷村字久世原太三郎氏妻女が發見、平署に届けられたが引取なため親切な同女が夫と相談自宅に保護を加へてゐるが未だに引取人なく片言まら「カアチャン、ネンネオン」のみで名前も住

輕音樂の夕

平町で開催

この程平町に創立された平輕音樂トリオでは第一回演奏を來月三日午後七時から第二部、第三部に分けて平町樂樂館に催すことにな

弄火から發火

十五日午前十時四十分頃江名町下神日渡邊清(三〇)方物置から發火、非住家一棟を焼いて鎮火した、原因は同家四男西郎(三〇)が近所の大平正美(三〇)と弄火の末、損害調査中

明日の部

- 前六、三〇 速成獨逸語講座 登張信一郎
- 前七、〇〇 朝の修養「諸葛孔明の生涯」高田真治
- 前八、〇〇 家庭講座「牛乳の話」丹下正宮
- 後八、〇〇 五馬市實況 盛岡市志家盛岡産馬畜産定期家畜市場中繼
- 後九、〇〇 國民歌謡「我家の唄」ルナコーラ
- 後九、三〇 婦人の時間「都市衛生と家庭婦人」藤原九十郎
- 後六、〇〇 連続漫遊劇「九月の巻」チヌウチヌウ
- 後六、二五 趣味講演「父の水を語る」若山旅人
- 後七、三〇 講演「滿洲事變の回顧と國民の覺悟」岡村第二師團長
- 後八、〇〇 清元「道行浮時鷗」清元巴榮太夫他
- 後八、二五 ハーブ獨奏 雨田光平
- 後八、四〇 労働民謡「鹽濱唄」藏堂顯二郎 大阪放送合唱團
- 後九、〇〇 落語橋家團藏

犯罪手口 研究講習

警務村大字上湯長谷若松總太郎氏外有志は過般來村内から寄附募集して「犯罪手口」研究講習會は本十六日午後二時から平署會議室に開き平、植田、四倉

小學校に寄附 警務村の有志が

百辭典等

小學校に寄附

警務村の有志が

警務村大字上湯長谷若松總太郎氏外有志は過般來村内から寄附募集して「百辭典」研究講習會は本十六日午後二時から平署會議室に開き平、植田、四倉

開院 皮膚科 泌尿器科 性病科 専門

毎日(午前八時ヨリ 午後九時マデ) 入院隨意

平町田町(山内醫院跡)

江尻醫院

醫學博士 江尻伊三郎

電六九一番

繞る瓦解の謎

(脚上談上) 悟道軒圓玉(作) 尾・至陽(書)



二二三 目出度本懐

柳清四郎夫妻及び僕の幸助は友川右内その他助勢の者に斬り立てられてあとへへかへ退がる、この折こへかけ来たつた二人、この内の一人は水のたれる如き美男、これはお花こと土井伊織です、今一人は藤左衛門、どうしてこへ二人が来たと云ふに伊織が次郎長の子分に頼んで右内の行方をさぐらせると、四人連の武士で右内に似たものが二夕川の名主のもとにとまり云つて出た、その途中異松の觀世音に參詣するとの話この知らせに接して何うもそれが右内の一行らしく思はれ、この事を知らせやうと藤左衛門のともへ來ると柳はおさまと幸助を伴れて異松の觀世音に參詣に行きしと聞き、敵は四人、こちらに女を入れて三人直ぐに行つて助けろとこれから舞坂より船に乗つて平松へ來た、これは濱名湖の南岸、こゝまで來て船をすて異松を指して急ぐ折しも、向から來た土地の者の話で觀世音の境内で果て合があるとのこと、さて三人は

おさまはこれを知ると嬉しや觀世音の御利益にて二人の者が助勢に來てくれたかと大層喜んだ、清四郎に幸助は伊織に聲をかけられてこゝに英氣を恢復し踏み込み、斬つてかゝる、伊織に藤左衛門は一刀を振冠りおどり込んだが、お花は上野にて官軍を相手に血を浴び、ことには桃井先生より免許の腕前、忽ち右内に助勢する浪人二人を斬つておとした、これを見て右内がたじろぐところへビュツツ風を切つて飛び來たつた、首、これはおさまが投げたものだ、それが左の肩をグサと刺した、アツといつてトーンと右内がよろめく



と腰の脇差を引きぬいた、その時藤左衛門が匕首をおさまに渡し、藤「御新造、これで右内を突いてやんなせえわたくし共が來たからにはさつと敵はうたせて見せる」

上にも急いで觀世音の境内三ツ塚の茶屋の前まで來ると、柳清四郎に若黨の幸助は四人を相手に斬り結び居る、うしろにはおさまが手を合せて觀世音を念じてゐる、これを見ると土井伊織のお花が、花「柳さん、藤左衛門さんと二人で腕貸に來ましたよ、しつかりなさい」

おさまはこれを知ると嬉しや觀世音の御利益にて二人の者が助勢に來てくれたかと大層喜んだ、清四郎に幸助は伊織に聲をかけられてこゝに英氣を恢復し踏み込み、斬つてかゝる、伊織に藤左衛門は一刀を振冠りおどり込んだが、お花は上野にて官軍を相手に血を浴び、ことには桃井先生より免許の腕前、忽ち右内に助勢する浪人二人を斬つておとした、これを見て右内がたじろぐところへビュツツ風を切つて飛び來たつた、首、これはおさまが投げたものだ、それが左の肩をグサと刺した、アツといつてトーンと右内がよろめく

をしてやつた、と進みよつた柳、エイと叫んで斬りおろした、右内は頭上をざつくり割り付けられ、キヤツと悲鳴をあげた、この時幸助が斬り付けたが、それは右の腕を切りおとした

ドタリと仆れる、のしか、つて柳が右内の胸を貫いた、これを見て残れる一人が逃げやうとすると伊織のお花が、刀の背で小手を打つた、それ故ボロリと刀をおとし、そこを藤左衛門が脚を拂ふ、バツタリ仆れると、お花をおさまへ付けた伊織のお花の柄にてトーンと背をついたが、ウームといつたまゝ、此奴は氣絶した、これを見て見物はワーツと聲をあげた、清四郎はホツト一息ついた、清「親分衆のおかげを以て本懐を上げましてござる」花「お目出度うござります、右内がこつちへ入り込んだと聞きましてね、藤左衛門さんと一しよに後を追つて來たんですよ、しかしどうやら私共二人もお役に立つたやうでございます」清「御厚情の段々生々世々忘却いたしましたね、これさよ、幸助、親分衆によくお禮を申せ」二人はこれに手をついてあつく禮を述べた、ところへ觀音堂の堂守が出て來てこの事情を聞き、三人とそれに伊織に藤左衛門を堂のうちに入れて茶を興へ、また清四郎は傷をうけて居る事とて、この手あしをいたす次に氣絶してゐる右内の部下の者には氣付を興へてこゝれも介抱した、やうやく氣がついたがもうこの時は縛られてゐるこゝれは證人にするたために助けをおさま、こゝで駿府の官軍總督府にこの事を訴へることにした。

心ヨク通ジ藥

アロフエノール

平田町 阿部藥舖

提國	旗	平	四
燈	ス	カ	ヤ
提國	旗	平	四
燈	ス	カ	ヤ

店主が店員を連れて行かれる。正シイ食堂、正シイ喫茶、正シイ酒場。平・田町 ラレストサロン 電話三五二番

夜 診

胃腸性病性

内科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚科

門 專

院醫性胃村松

(番〇七一町南町平)

療 間

和洋家具

椅子、テーブル、子供

其他裝飾品一般

御用命は迅速に御努め致します

製作販賣 諸官衙 御用達 各學校

平町五丁目四

片寄製作店

片寄 小彌太 電話 四八四番

味美 貝焼

當店特製 鯉節

味美 鯉鹽から

魚問屋

榮盛賀志 番三一二話電 目丁四平